

Project
Operation
Sight for
All

POSA 事業報告

No.20

●平成27・28年度



術後の患者さんからのお礼のメッセージ



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA 目 次



理事長より

『押忍讃歌』	POSA理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀	 P1
--------	-------------------------------------	----------

副理事長より

『POSAアイキャンプの現況』	POSA副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望	 P2
-----------------	-----------------------------	----------

国際エンゼル協会より

『倉富医師の思いをつなげ』	特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 事務局長 前田 泰宏	 P3
---------------	-------------------------------	----------

『愛が続いてEye Camp』	国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ	 P4
-----------------	-----------------------------	----------

ライオンズクラブより

『人々に大尊厳をもって生きることを進める活動に感謝』		
----------------------------	--	--

2016年度 神埼ライオンズクラブ会長 毛利 久幸	 P5
---------------------------	----------

『未来へつなごう アイキャンプとライオンズ』		
------------------------	--	--

2017年度 神埼ライオンズクラブ会長 吉原 俊樹	 P6
---------------------------	----------

平成27・28年度事業報告及び平成28・29年度事業計画

ふるさと納税によるPOSAへの寄付と年会費・入会金納入のお願い	 P10
---------------------------------	-----------

平成27年度事業報告	 P12
------------	-----------

平成28年度事業計画	 P13
------------	-----------

平成28年度事業報告	 P14
------------	-----------

平成29年度事業計画	 P15
------------	-----------

ご支援頂いた方の一覧表	 P16
-------------	-----------

POSA理事・監事名簿・POSA会員・POSA規約（一部抜粋）・入会のお願い	 P17
--	-----------

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『押忍讃歌』 POSA理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀



現在のIS(イスラム国)の主要なターゲット国は、バングラデシュとフィリピンである。バングラデシュにおいてはISに感化された高学歴の若者が現地で戦闘訓練、思想教育を受けバングラデシュに舞い戻り国内でターゲットを探している。ターゲットの探し方は主にインターネットによるものである。当然バングラデシュ国内で活動している海外のボランティア機関もターゲットになっていると思われる。昨年のレストランでの日本人を含む外国人の殺戮においては殺害方法もIS方式と呼ばれる残忍なものであった。これらのことは現地スタッフ経由で現地警察機関担当者に直接聞いて判明したことである。2015年は、別の事件で日本人殺害があったため取りあえずアイキャンプ全体を中止としたが、2017年2月に現地スタッフによる現地医療機関(ダッカ市内のライオンズ眼科病院)にて白内障手術を55眼施行した。本年度も現地スタッフによる白内障手術を約100眼予定している。また、

副理事長である熊本県の井上望 докторが自ら白内障手術機械を持参して現地ライオンズ眼科病院での白内障手術を予定している。但し、状況を見て安全が担保されればという条件付きではある。頭が下がる思いである。しかし、当面は大人数参加でのバングラデシュアイキャンプは控えるのが賢明であると考えられる。

なお、一昨年は手術を中止した。この為に余った予算は現地エンゼル協会から希望があった発電機購入に充てた。

さて、今回は怒髪天。メロディーラインに繊細さのかけらもなく、歌詞は直球である。品がないと言われることも多い。本年元旦に京都で伝説のライブハウス磔磔(たたく)で開催された怒髪天のトークライブはなかなかのものであった。(家族全員に参加を反対されたが強引に押し切って全員で参加したのも良い経験となった。)

押忍讃歌 (怒髪天)

Hey! Men! 男人生の 半分ほどを占めるのは Hey! Men! それは中年期 ここが男の魅せどころ
Hey! Men! 三十でやっと 己の足で立ち上がり Hey! Men! 四十を過ぎて 行くべき道を見極める

嗚呼 戦う男の背中に 赤い夕陽がギラギラ燃えている

男道 花盛り ゆくぞ! We are The OSSAN! 男道 花盛り ゆくぞ! We are The OSSAN!

Hey! Men! 薄くなったとか 腹が出たとか 老けたとか Hey! Men! 目に映るモノに 大事なモノは少ないぜ

Hey! Men! 深く刻まれた 男の顔のシワこそが Hey! Men! 修羅場くぐりぬけ 生きた名誉の傷なのさ

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAアイキャンプの現況』 POSA副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望



平素よりPOSAの活動にご理解、ご支援をいただき有難うございます。昨年と今年のPOSA活動内容についてご報告させていただきます。

バングラデシュで2015年9月からISIL(イスラム教スンニ派過激組織)によるテロ事件が発生しました。2015年11月、現地の受け入れ先であるエンゼル協会からその年の眼科医療援助は取りやめたほうがよいとのことをご忠告をいただきました。POSAとしましても目立った行動は控えるべきと判断し、2015年から日本からの医師、看護師、視能訓練士、学生等の参加を見合わせています。

これまで20年続けたPOSAの活動は現地に定着し、現在もアイキャンプ開催の要望は依然として強い状況です。そのため2017年2月にダッカ市内のライオンズクラブ眼科病院に資金援助を行い、恵まれない患者さんに対して現地の眼科医による白内障手術を行う事ができまし

た。POSAとしては将来、治安状況安定後にアイキャンプを再開する予定ですが、それまでは現地スタッフによる眼科医療援助を継続する所存です。

これまで医療関係者はもちろん、多くの一般の方々にも参加して頂いたアイキャンプです。特に若い学生さんに貴重な体験を提供出来たとの思いがあります。日本からの参加を見合わせている現在の状況は大変残念ですが、皆様からのご援助はバングラデシュで失明している方々の治療に使わせていただいています。治安が安定するのがいつになるか分かりませんが、今後も会員の皆様方には引き続きご支援いただき、気長に見守って頂けると幸いです。

現地での白内障手術



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『倉富医師の思いをつなげ』

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 事務局長
前田 泰宏



日本から眼科医師がバングラデシュを訪れて毎年行われていたPOSAアイキャンプも昨年の夏の日本人7人が被害にあったテロ攻撃の影響で、日本大使館の意向もあり日本人医師のバングラデシュ訪問が困難な状況にもかかわらず、白内障で苦しんでいるバングラデシュの人たちのために、ダッカライオンズクラブ眼科病院に依頼して白内障手術を経済的に支援をしてくれました。16年前に私が「なぜバングラデシュで白内障手術をするのですか？」とPOSAの倉富医師に伺ったら「バングラデシュの貧しい農村の人たちが、白内障患者がいることで、その

人のためにもう一人家族の働き手が取られ、貧しさから抜け出せないでしょう。白内障手術をすることでその人は少なくとも自分のことは自分で出来るようになり、健康な人は働けるようになりますよね」との言葉を思い出しながら、今年はぜひバングラデシュに行き倉富医師をはじめとする皆さんの力でアイキャンプを行っていただきたいと思います。そのためにもテロのない世界平和を祈りたいと思います。

現地眼科医による術前の診察



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『愛が続いてEye Camp』 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ



POSAやLions Clubのみなさんの愛が続いて長くバングラデシュでEye campを続けてきました。2017年まで1173人がおかげさまで見えるようになり、仕事ができ、自分の家族を助けることができました。

2016年にはEye campを行うことができませんでした。現地のDhaka Shariatpur Central Lions Eye Hospitalに100枚の手術用眼内レンズを寄付して頂き大勢の方々が助かりました。

2017年2月Lions Club Of Dhaka Central, District 315B2 の協力でBangladesh Lions Foundation Hospitalにて男性33人、女性22人の白内障手術をすることができました。コナバリでのClinicにも毎週火曜日に眼科の先生が来ていただき今までに21673人の患者さんを診ていただきました。

本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

Md.Azizul Bari
Executive Director
International Angel Association
Konabari, Gazipur
Bangladesh

術後の患者さん（手前左から1人目がバリさん）



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『人々に大尊厳をもって生きることを進める活動に感謝』

2016年度 神埼ライオンズクラブ会長

毛利 久幸



倉富先生並びにPOSAスタッフの皆様、いつもアイキャンプの支援大変にお疲れ様です。バングラデシュのテロ以降も物資の支援などを続けて来られ海を越えた誠心誠意の活動に頭が下がる思いでいっぱいです。

また、2016年4月には、倉富先生の活動へ少しばかりの協力をさせて頂いております神埼ライオンズクラブが、ライオンズクラブ国際協会より国際会長賞という最高の賞を頂くことができました。これは長きにわたるPOSAの継続事業が、世界中のライオンズクラブの模範となっており、困っている方への大きな希望、また勇気になっていると賞されたものです。この優れた事業が地域社会に留まらず、世界中の人々への貢献につながっていることを大変誇りに思います。

我々、ライオンズクラブは三献(献血・献眼・献腎)に重点を置き活動しておりますが、POSAの「視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。」という理念には大変共感しており、これからも共に大きな人道的奉仕を提供していきたいと願っております。

最後になりましたが、POSAの皆様益々の発展と、バングラデシュが一日も早く安全な環境になりますように心より祈念申し上げます。

術後の患者さん



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『未来へつなごう アイキャンプとライオンズ』

2017年度 神埼ライオンズクラブ会長

吉原 俊樹



長年にわたるアイキャンプ活動に対し、まずはPOSAをはじめ、すべての関係者の皆さまへ心からの敬意を申し上げます。

アイキャンプはライオンズメンバーの倉富理事長よりインド6回、バングラデシュ18回と24年間に渡り継続されており、ライオンズクラブとの関わりは早いもので、いつの間にか20年を越しました。

倉富理事長が神埼ライオンズクラブの30周年式典にて事業発表されていたのがこの頃のような気がしますが、感慨深くあらためて感じています。

近年は若い世代のキャンプ参加者の増加もあり、その人と活動の広がりに益々充実したものへと願ってやみません。

今回は関わって頂いている皆様へライオンズクラブについて少し書かせていただきました。

ライオンズクラブ国際協会は、1917年にアメリカ・シカゴ実業界の若手リーダー38歳のメルビン・ジョーンズ氏が地元のシカゴ・ビジネス・サークル(経営者異業種交流会)にて「仕事の問題を超えて、地域や世界をよりよくするために貢献するべき」と訴え、まずはアメリカ国内大会が開催されてスタート。

その後、数年間で一気に世界へ活動の輪が広がります。1925年の国際大会で講演をしたヘレン・ケラーが「暗闇と闘う盲人の騎士」との直訴した言葉は有名であり、失明者など視覚障害者への援助に力を注ぎ始める事とな

村々からライオンズ病院への送迎



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

り、以来ライオンズ事業の柱となっています。この事がアイキャンプ事業との関わりに深い縁をいつも感じています。

1945年大戦終戦時、国際連合が協力を求めてきた最初の非政府組織の一つとして国際連合憲章の起草に助力しました。

一方、日本では人類にとって悲慘な歴史である二つの大戦終戦7年後、日本人が厳しい復興模索の中でありながら、1952年にフィリピンのマニラライオンズクラブのスポンサーにて東京ライオンズクラブが日本で誕生。

国際組織の名のもと、国際的な活動が中心と思われがちですが、まずは、国々の小さな市町レベルの地域ニーズへの小規模な社会奉仕(清掃活動や青少年育成、献血など)の活動奨励推進と既存の地縁地域文化コミュニティを意識したクラブ設置の姿勢がスムーズな展開とな

り、日本国内へ急速な広がりをみせます。

We Serve「我々は奉仕する」をモットーとしており、現在46,000を超えるクラブ、135万人以上の会員を擁する今期100周年を迎える世界最大の奉仕団体と成長する事となります。

LIONSの「L」libertyは、英語で自由を意味し、様々な運動を通じて手に入れた自由(人工的な自由)であり、「I」intelligenceは、知能、理解力、思考力、知性であり、Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety、自由を守り、知性を重んじ、われわれの国(地域社会そのもの)の安全を図るの意味で一文字ずつを取り入れたものです。単に百獣の王ライオンをシンボルにしているわけではありません。

1968年には世界規模及び地域で行われる大規模な人道奉仕事業(災害支援、青少年プログラムなど世界各地

現地眼科医による術前検査



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

の各種ニーズ)に取り組むライオンズクラブ活動援助を目的に「LCIF財団」創設。世界中のライオンズメンバーが基金を出し合い運営されており、POSAの「アイキャンプ」も神埼ライオンズクラブ活動として、この「LCIF財団」の資金を活用しています。

また、この頃にYCE(青少年交換)事業も神戸とアメリカで始まり、現在も30カ国以上の参加にて多数の青少年が交換留学に行っており、今年も九州レベルのユースキャンプが佐賀県武雄市で開催されるなど約50年以上継続している事業です。倉富理事長にも神埼ライオンズにて行う際にはいつも関わっていただいております、個人的にいつかは、アイキャンプを通じて縁あるバングラデシュとも青少年交換留学事業を組みたいと考えています。

そして、1967年9月3日に神埼ライオンズクラブは結成されます。

結成半世紀前のこの年にはミニスカートのツイッギー来

日旋風が起こり、前年のビートルズ来日など1964年東京オリンピックを契機に国際的な価値観や生活スタイルが動き出た高度成長期です。

1963年生まれのも私も小学生の時、当時の国のインフラ政策と思われますが、駄菓子の値段がいきなり上がったのを強く体感記憶しています。

その後、50年の月日が流れました。

今、社会では様々なNPO組織など民間組織が混在しており、活動も多種多様化。SNSなどでプレゼンテーションして資金を集めるクラウドファンディングやふるさと納税寄付等も活用して様々な活動により自ら地域社会課題解決を図る市民社会組織等は数多く誕生存在しています。

震災復興ボランティアをはじめ、様々な場面で幅広く地域社会が支えられています、50年前、公金でインフラ整備が進む一方で民間にて国際組織を通じての神埼ライオンズクラブ誕生は県内においても先駆けたスタート

神埼ライオンズクラブLCIFによって建てられたボリバリ村クリニック



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

であり、そのチャーターメンバーの崇高なる精神と卓越した行動力と当時の神埼の地域社会力の高さが感じられます。

さて、POSAのモットーであるall that is not shared is lost「わかち合われないすべての物は失われる」とライオンズのモットーWe Serve「われわれは奉仕する」、ライオンズの誓い「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」の目指すものはしっかり繋がりが合い、先にふれたライオンズクラブLCIF財団国際援助交付金(IAG)事業においては、日本国内では有数の実績を誇るものとなり、神埼ライオンズクラブの代表的なアクティビティとなりました。

神埼ライオンズクラブ50周年にあたり、「人と未来をつなぐ奉仕」の提言を掲げました。人をつなぐ(仲間づくり)はいつの時代でも大切なキーワードであり、友愛と相互理

解には人と人がしっかりと繋がらう事が前提です。

そして、未来につながりには醸成されたアイキャンプや様々なライオンズアクティビティを継続して繋ぎ続ける事が大切と考えます。

ライオンズの始まりは一人の発言から組み上げられました。人々の知恵と力は無限の可能性が秘められております。

一方で残念ながら、世界の国々を見渡しますと、まだまだ内紛も絶えず、貧困や生活格差の現状があり、薬物の蔓延など落ち着きには程遠く、未来は危惧されています。

縁あって繋がった私どもの活動が「希望ある未来への道しるべ」として多くの人々につながる事が大きな願いです。

術後の患者さん



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



「ふるさと納税によるPOSAへの寄付と年会費・入会金納入のお願い」



平素より POSA 活動のご理解ご協力有難うございます。

ご存知の様に POSA は皆様方の寄付金や年会費により活動しています。

この度、**POSA** が**佐賀県**のふるさと納税の対象団体として指定されました。つきましては佐賀県のふるさと納税制度を利用しての POSA へのご寄付やお支払いが可能となりましたのでお知らせいたします。

※佐賀県在住の方でも寄付は可能です。

☆1.ふるさと納税は※寄付金控除の対象となります。

※寄付金控除とは納税者が国や地方公共団体等に寄付をすると受けられる所得控除と税額控除のことです。

※総所得の40%までの寄付金が所得控除となります。

☆2.さらに住民税の2割までの寄付額については、有利な条件で控除を受けることが出来ます。

※ふるさと納税寄付金の2,000円を超える金額すべてが翌年の住民税から減免されます。

※確定申告もしくは「ワンストップ特例制度」の申請が必要となります。

ふるさと納税で **POSA** を指定してご寄付頂いた場合は、ふるさと納税1万円につきバングラデシュの特産品であるノクシカタ（バングラデシュの民芸 象をデザインした小物やバッグが人気）を一個進呈致します。

例）3万円のふるさと納税で **POSA** を指定して寄付をして頂いた場合：3個のノクシカタを進呈致します。

このノクシカタという特産品はバングラデシュの伝統刺繍で、現地の女性の収入源にもなり、現地協力団体である国際エンゼル協会の子供たちの学費にも充てられます。

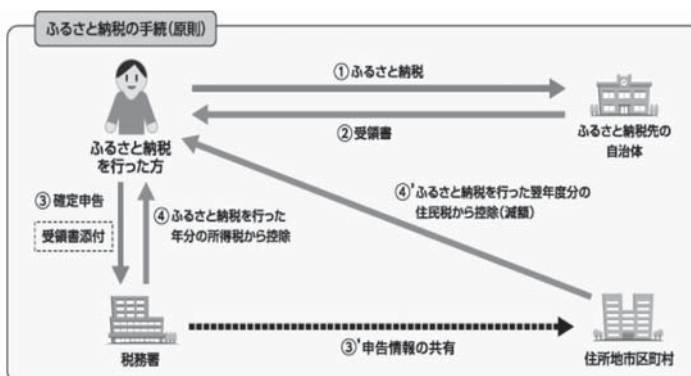
また **POSA** にふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンピングにて現地の白内障手術の為の経費に充てられます。収支は **POSA** のホームページでも公開し経理の透明性を保っております。

「ワンストップ特例制度」平成27年4月1日から適用。

寄付する際に申請書を要望すると送られてくる申告特例申請書に記入して返送するだけで自動的に「翌年の住民税」が控除され、確定申告が不要になる制度です。

「ワンストップ特例制度」の対象

- 寄付先の自治体が **1年間に5箇所以内**の方。
- 寄付を行った年の所得について確定申告が不要なサラリーマンの方など。
(自営業者や高所得者、株式投資や医療費控除等で確定申告をされる方は適用外となりますのでそれらの申告同様に、ふるさと納税についても確定申告をされて下さい。)



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法

○クレジット決済ご希望の方

1. G o o g l e などのインターネットで「ふるさとチョイス」を検索
2. 「ふるさとチョイス」のホームページをクリック
3. 「地域でチョイス」をクリック
4. 「九州・沖縄」をクリック
5. 「佐賀県(NPO支援)」をクリック
6. 「この自治体に寄付を申し込む」をクリック
7. 会員登録がお済の方は「ログイン」
会員登録をされていない方は「新規会員登録」もしくは「会員登録しないで進む」をクリック
8. ▼申込者情報に必要事項を記入
9. ▼寄付情報に必要事項を記入
10. ▼寄付メニュー（寄附金の使途）及びお返しの品で
「NPO法人 POSA」をコース選択で選択
「バングラデシュの民芸品ノクシカタ」か「お礼の品は不要」を選択
11. ▼その他に必要事項を記入
12. ▼その他 佐賀県へのメッセージの欄にご希望のノクシカタ（AかB）をご入力下さい。
ご入力がない場合はこちらで選んでお送り致します。
13. ワンストップ特例制度をご利用の方は、
▼その他 申請書の要望 ☐ 寄附金税額控除に係る申告特例申請書を要望するに必ずチェックを入れて下さい。
申告特例申請書が送られて来ますので、ご記入の上、必ずご返送下さい。
14. 「確認する」をクリックし、入力内容を確認する
15. 「送信する」をクリック →完了

POSA会員にご入会頂いた皆様は、今後は入会金（10,000 円）や年会費（10,000 円）の納入もふるさと納税制度を利用されますと個人の自己負担は少なくなります。

入会金や年会費納入の場合は・・・▼その他 佐賀県へのメッセージの欄に「寄附金、入会金、寄付金」のうち該当するものをご入力下さい。（複数可）

例：寄附金 30,000 円、年会費 10,000 円

○クレジット決済以外をご希望の方

1. G o o g l e などのインターネットで「ふるさと佐賀県応援サイト」を検索
2. 「佐賀県：ふるさと佐賀県応援サイト」のホームページをクリック
3. お申込みのご案内「NPO等の支援はこちら」をクリック
4. 「ふるさと納税お申込みフォーム」より振込先を選択
必要事項をご記入の上、お申込み下さい。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成27年度事業報告



2015年度のアイキャンプについては、2015年9月28日、首都ダッカで過激派組織ISによりイタリア人男性が射殺されるという事件が発生しました。10月3日にはバングラデシュ北部で日本人男性が射殺され、ISが犯行声明をだしました。現地に問い合わせたところ、あと2人の外国人を狙うとの報道もあるようでバングラデシュでは治安不安がつづいております。また、ご存じの通り2015年11月14日にはパリで同時多発テロが発生し、全世界的にISの活動が活発化しております。日本大使館のホームページでの安全情報でもバングラデシュの警戒レベル

が「レベル2」に上がっており、現地の受け入れ先であるエンゼル協会からも2015年12月のアイキャンプは取りやめたほうがよいとの忠告をいただきました。POSAとしても目立った行動は控えるべきと判断し2015年12月のアイキャンプを中止しました。規模縮小により余剰となった予算については現地で必要な発電機の購入に充てさせていただきました。

国内啓発活動

バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金

バングラデシュの現状についての啓発活動

購入した発電機



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成28年度事業計画



2016年7月1日(金)21時30分頃(日本時間2日未明)、バングラデシュ首都ダッカ市内のレストランにおいてイスラム過激派組織に属する数名の武装グループが人質を取って籠城し、日本人7名を含む約20名を殺害、多数が負傷する事件が発生しました。他にも、インドネシア、トルコ、ベルギー、米国等、世界の様々な地域において、テロ事件が発生しています。日本人・日本権益が目的となる可能性もあります。今回の事件を受け、POSAとし

ても安全面を考慮した結果、目立った行動は控えるべきと判断しました。去年に引き続き、今年度も日本からの医師、看護師、視能訓練士、学生等の眼科医療援助(アイキャンプ)の参加を見合わせることにしました。来年以降に、現地の状況が安定しましたら再開しようと思っております。再開までは、現地スタッフによる眼科医療援助を行います。

現地眼科医による術前の診察



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成28年度事業報告



〈 Bangladesh 眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施 〉

実施期間：平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

実施場所： Bangladesh 国インターナショナル
エンゼルアソシエーション（IAA）本部
クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地助手

〈 現地眼科医及び現地スタッフによる Bangladesh アイキャンプの実施 〉

実施場所：ダッカ市内のライオンズ眼科病院

実施期間：平成29年2月17日から2月19日
平成29年2月27日から3月1日

活動内容

- ・手術時に使用する眼内レンズ100枚の進呈。
- ・現地の眼科疾患の症例及び358名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び55名の白内障手術を実施。

国内啓発活動

Bangladesh アイキャンプへの寄贈品、募金
Bangladesh の現状についての啓発活動

眼内レンズ進呈式典の様子

（右から4人目エンゼル協会のバリさんに渡してもらいました。）



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成29年度事業計画



2017年度も安全面を考慮した結果、日本人が主体のアイキャンプは控えるべきと判断しました。今年もダッカ市内のライオンズ眼科病院にて現地眼科医及び現地スタッフによる白内障手術100眼を予定しています。

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション（IAA）本部
クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地助手

〈現地眼科医及び現地スタッフによるバングラデシュアイキャンプの実施〉

実施期間：平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

実施場所：ダッカ市内のライオンズ眼科病院

派遣員：日本からの眼科医及び看護師
現地眼科医及び現地助手

スクリーニングを待つ人たち



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



暖かいご支援ありがとうございました。

敬称は省略させていただきます。(順不同)

紙面の都合上、掲載されていない方もおられます。ご了承ください。



————— 平成27年4月1日～平成28年3月31日 —————

【寄付者】

眞島 信子	若山 久栄	世戸 憲男	芥川 泰生	森岡千鶴子	松本いく子
松村圭一郎	川崎まり子	加勢田正春	佐藤 薫	野中 幸子	井上 淑子
谷村 一哉	水田 博幸	近藤朱希子	沼田 公子	田中 皇一	東海林幹夫
豊田 基嗣	中村 喜明	塩谷 和敬	井上 麻記	井上 望	森 茂樹
永山 直道	伊藤 豪	照屋 武	宮野 哲也	石田 将之	井上 多絵
広澤恵美子	町田 勇人	柴田 聖子	佐々木泰介	坂本紀久恵	

(有) 千代田冷凍工業 神埼ライオンズクラブ 国際ライオンズクラブ
菊池眼科患者様御一同 くらとみ眼科医院患者様御一同

【眼鏡】

本村 淑子 米倉 洋文 国際ソロプチミスト協会 久留米

————— 平成28年4月1日～平成29年3月31日 —————

【寄付者】

山並 典子	世戸 憲男	芥川 泰生	小田 英夫	末永 博義	松本いく子
瀧本 峰洋	井上 麻記	井上 望	鰐部 博明	坂本紀久恵	松井美和子
若山 久栄	竹渕 伸二	奥山 弓子	坂本 歩	枝光 理	星 幸広
村田 康夫	安川 栄一	白坂 哲朗	岡安ゆかり	照屋 武	白藤久美子
田中 清隆	石山明日香	小森 啓範	丸山 智也	ヤナギサワ エイコ	仁木 弥生

神埼ライオンズクラブ 国際ライオンズクラブ 菊池眼科患者様御一同
くらとみ眼科医院患者様御一同

【眼鏡】

前田健太郎 国際ソロプチミスト協会 久留米

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA理事・監事名簿



理 事 長	倉 富 彰 秀	(医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長)
副理事長	井 上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
	八 谷 克 幸	(佐賀県会議員)
理 事	橘 光 幸	(橘商事 代表)
	檀 本 純 一	(医師)
監 事	末 永 博 義	(末永司法書士事務所 代表)
	峰 悦 男	(峰公認会計士事務所 代表)

(順不同)

POSA名誉会員

名誉会員	山 口 祥 義	(佐賀県知事)
	中 尾 清一郎	(佐賀新聞社 社長)

(順不同)

POSA一般会員

芥川 泰生	大島 博	高橋 良太	野口 寿	安谷 久美子
(株)アステム	各務 晃子	瀧本 峰洋	原 康夫	山口 克宏
東 キヨ子	(株)神埼薬局	田中 清隆	秀島 正博	吉田 幸代
伊崎 祐介	倉富 亜由美	田邊 樹郎	福島 武	与那嶺 豊
井上 香奈子	柴田 一馬	照屋 邦子	堀 秀行	
井上 麻記	杉戸 正和	富永 琴里	松本 博	
今村 玲南	砂原 伸彦	富永 杏花	毛利 伊津子	
宇野 光次	世戸 憲男	西本 千紘	(株)毛利工務店	
江崎 円香	参天製薬(株)	(株)日本点眼	森岡 千鶴子	
枝光 理	高橋 雄二	沼田 公子	八木 隆明	

(敬称略・五十音順)

POSA (ポサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壹万円、及び年会費壹万円を納入しなければならない。

POSA一般会員入会を随時受け付けております。ご連絡下さい。(POSA事務局 TEL: 0952-52-8841 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

受け入れ先エンゼル協会(孤児院)の子供たち



Project Operation Sight for All

P O S A 事 務 局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mailアドレス posa@train.ocn.ne.jp

2017年9月発行